

農業



令和7年11月号

会誌 No. 1736

目次

巻頭言

若い人が描く食と農の未来は……………合瀬 宏毅 3

論 壇

国家安全保障からみた農業技術研究の戦略的意義を考える
……………白谷 栄作 4

春期中央農事講演会

新たな「食料・農業・農村基本計画」について……………山口 靖 6

農業懇話会

原子力災害からの復興と営農再開……………森澤 敏哉 21
—14年後の福島の間—

表彰農家訪問

環境負荷低減した農業生産を実践し、積極的な情報発信と農福連携を実現
……………長谷川美典 38
—奈良県吉野郡下市町に菊井新昭さん、敏子さんを訪ねて—

研究の最前線

餌探しを「すぐにあきらめない」天敵昆虫を育成……………世古 智一 46
—天敵昆虫の行動を育種改良—

私の経営と志

労働環境改善を目的とした勤務体制の改革……………高橋 伸 53
—大好きな農業を続けていくために—

統計情報

乳用牛・肉用牛の飼養戸数・頭数の推移（全国）	55
農作物作付（栽培）延べ面積及び耕地利用率の推移（全国）	56
農政情報	57
令和6年度全国農業大学校等プロジェクト発表会・意見発表会の 受賞者について	58
大日本農会だより	59
編集部から	60

表紙写真説明：シリーズ農村の伝統祭事

おやだ 大矢田のひんここ祭 (岐阜県 美濃市)

ひんここ祭は、大矢田神社の例大祭（10月第三土曜日と翌日曜日）に行われるもので、室町時代の寛正三年に始まったと伝えられています。1999（平成11）年には、「記録作成等の措置を講ずべき国の無形民俗文化財」に選ばれました。

例大祭で行われるひんここ祭とは、大神様を御神輿で大矢田神社からお旅所へ送迎する御神幸、笹渡り、獅子渡り、ひんここの舞など氏子による奉納神事の総称で、五穀豊穡（ほうじょう）や疫病退散を祈願するお祭りです。

11月第四日曜日には、大矢田ひんここ祭保存会により、「ひんここの舞」が演じられます。ひんここの舞は、農民が麦まきをしているところへ大蛇が現れて、農民を次々に飲み込んでしまい、そこへ須佐之男命（すさのおのみこと）が現れて、大蛇を退治するという物語を演じるもので、五穀豊穡を祈願する素朴な人形劇です。ひんこことは、定説は不明ですが、お囃子が「ヒンココ、チャイココ、チャイチャイ、ホーイ」と聞こえるところからとも言われています。ひんここの舞に登場する人形は、須佐之男命と二役を演ずる祢宜殿（ねぎどの）、農民、大蛇で構成されます。

（写真・文：美濃市観光協会）